

生徒主体の校則見直し取組事例

徳島県では、すべての高校で生徒主体の校則の見直しが行われています。その中から、各校で行われている校則見直しの事例をいくつか紹介します。

☆徳島県立阿波高等学校

- ・服装選択制を導入し、夏季と冬季に生徒各自の判断で服装を選べる期間を設けた。
- 【効果】酷暑や極寒の日に、自分の体調や気候に合わせて服装を選んで着ることができ、好評であった。

☆徳島県立徳島科学技術高等学校

- ・生徒会主催で、校則の見直しについての公開討論会を実施した。
- 【効果】誰でも参加できる公開討論会により、校則を深く考える機会を得て議論が活性化することができた。

校則見直しの取組は、県内の中学校にも広がっています。

☆美馬市立穴吹中学校

- ・全校生徒が考える「生徒心得」見直しプロジェクトを実施し、1年間を通して生徒一人一人が考え、生徒会が主体となり、対話と議論を重ねて新生徒心得を施行した。
- 【効果】「対話を通して合意形成」を常に意識することで、本プロジェクトの目的である「社会の一員として自立して・社会に役立つ・幸せに生きる基盤づくり」を達成できた。



☆徳島市城東中学校

- ・他県の中学校が意見交換を行うサミットに参加し、学校行事や校則について各校の取組を紹介して情報交換したり、県外の中学生に直接質問したりすることができた。
- 【効果】自分たちの考え方と他県の中学生の考え方を比較でき、新しい考え方に出会うきっかけになるとともに、全国レベルでの交流ができて良い刺激を受けた。



【生徒の自主性を重んじている県外高校の事例】

☆宮城県仙台第一高等学校

- ・昭和40年代に生徒主体で私服や自由な髪型での登校を学校に提案し、学校の間で議論を重ねた上で採用され、以後、私服登校を学校の伝統として守り続けている。
- ・学校行事は「発起人制度」が採用されており、発起人と呼ばれる代表生徒を中心に自主運営される。
- ・学年集会や全校集会は、生徒の代表である「応援団」と呼ばれる組織が生徒に指示・指導を行い、整列する。
- ・SHRでの連絡は生徒が自主的に行い、その他の連絡は学年掲示板で生徒各自が自己責任の下に確認する。



※これらの例を参考にしながら、これからも生徒主体による校則の見直しを進めてください。